

作物別技術交流集会報告

# 和梨

1999年に続く第2回目の和梨技術交流集会は、2002年7月12日～13日の2日間、熊本県もっこす倶楽部の松本哲己さんを幹事生産者として開催された。参加生産者は15名、テーマは「品質の向上」だ。

らでいっしゅぼーや(株)農産部仕入課 島田 俊介

## Report

### ■生産者の意識も向上

見事なまでに整枝された梨園、きちんと刈り込まれた防風林、ナギナタガヤによる草生栽培の松本さんの圃場を参加者一同で視察した後、いかにして梨の品質を向上していくかについて勉強会が行なわれた。

梨はりんごと同様に農薬の防除回数がかかなか減らせない作物だ。前回99年の開催時も生産者の関心は防除だったが、当時は「いかに減らせるか」よりも「どの薬剤がよく効くか」という話に終始していた感が拭えなかった。今回も防除が話題となったが、内容は「物理防除」や「天然資材防除」による「化学農薬防除」の削減に推移しており、生産者の意識の変化が伺えた。

### ■土作りでなし得るウルトラC!?

さらに、今回はアドバイザーであるJBFの小祝氏から、「土作り」によって病害虫に強い樹を作り、農薬防除を削減し、同時に品質の高い梨づくりを目指すという話があった。丈夫な樹を作りながら、果実の糖度も上げ、貯蔵性もよくする、という一見ウルトラCのような技をなし得るにはどうすればいいのか？

重要なポイントの一つ目はやはり「苦土やホウ素、石灰」等の肥料分だ。畜糞堆肥などの有機肥料を主体とした生産者の圃場は、苦土・石灰欠乏、カリ過剰であることが多い。今回の土壌分析でも、過去に大量の牛糞堆肥を投入していたことが原因でカリ過剰が指摘された圃場や、苦土欠乏の圃場が多かった。

梨の栽培に限ったことではないが、小祝氏によれば、「苦土・石灰は1年を通して切らしてはいけない肥料分」なのだそう。苦土はこれまでも光合成に欠かせない葉緑素を形成する重要な要素として強調されてきた。加えて石灰も、欠乏すると糖度が上がらず発酵果や変色の原因となり得るし、細胞同士を強固に接着するペクチン酸カルシウムの原料ともなっており、病害抵抗力強化には欠かせない肥料分なのだ。微量元素では、ホウ素が重要で、梨は落葉果樹中最も多量のホウ素を必要とする果樹であり、元肥にホウ素が十分あることで、果肉の軟化が防げるという。

### ■ウルトラCへの道、ポイント2

ポイントの二つ目は梨の生理に沿った窒素の施用だ。

窒素は「適期に適量」を施用しなければ意味がないという。落葉果樹である梨では、秋の施肥(=礼肥)が翌年の品質や収量に大きく関わっている。礼肥の目的は樹勢回復、養分の貯蔵、花芽の充実、耐寒性の向上、開花揃い、翌年の花芽・結果枝の増加などだ。礼肥は9月中旬以降の光合成のピークに間に合うよう、9月上旬までの施肥が望まれる。次に基肥(一般的には春肥と呼ばれる)は落葉直後、雪が降るまでに施肥することが肝要だ。翌春、礼肥による貯蔵養分が切れた後、速やかに基肥の肥効が発揮されるには、降雪前の施肥により春先に肥料分がすぐに吸収される状態になっていることが必要となる。

最後に実肥は、樹勢を落とさず、果実の肥大を助ける肥料であるが、早生品種では6月下旬、晩生品種では7月中旬が施肥時期となる。窒素の割合は全体を100%とした場合、礼肥29%基肥59%実肥12%が目安となる。

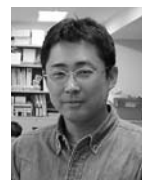
### ■施肥体系の見直し この秋実施!

今回の技術交流集会で得た施肥に関する情報は、早速今年の秋の礼肥から実施が可能だ。技術交流集会後のアンケートの中でも「施肥体系を見直す」と生産者はやる気十分のようだ。来期は味もよく、日持ちもよく、防除もより少ない梨が実現できるだろうか？秋以降の和梨生産者の発奮に期待したい。

#### 各要素の働き

要素/作用	窒素	燐酸	加里	石灰	苦土	ケイ素	硫黄	マンガン	ホウ素	鉄	銅	亜鉛	モリブデン	ナトリウム	塩素	ゲルマニウム
根の発育促進	◎	◎	○	◎				○		○			○	○		○
茎葉の健全強化	○	◎	○	◎	◎	○	◎			○		○		○	○	○
根腐れ、芯腐れ、空洞化防止		○		◎	○			○	◎	○						
病害抵抗力強化	◎		◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎		◎		
隔年結果の防止		◎			◎			◎	◎	◎	◎			○		
澱粉造成促進	○		○	○										○		
糖分造成促進	○	◎		◎										○		
個体重量の増加		○	◎			○	◎	○						○		○
貯蔵力の増加		◎			◎	○		○	○					○		○

(作成：株式会社ジャパン バイオ ファーム 小祝政明)



#### プロフィール

**島田俊介**  
らでいっしゅぼーや(株)農産部仕入課  
69年生まれ。入社は97年、農産部で注文品の果物担当。ネイティブアメリカン好きだが、昨年バナナの産地開発で訪れたタイに惹かれ現在はアジアモード。妻はRadixの会事務局の島田晶子。「健康で、面白くて、楽なのが一番」